

日々 往来



大山 陽久

地方創生戦略の実行2年目。5月に開催された鳥取県全体会合では、多くの指標が目標に向けて着実な進捗を示す一方、各市町村長が口をそろえて人手不足を訴えていたのが印象的であった。こうした人手不足現象に対応するため、全国各

人口減に打ち克つIT活用を

地で省人化・効率化投資 消極的との分析も示されが活発化しており、鳥取ている。

でも同様の傾向がみられ 冒頭の県会合では、「人る。先行き人口減が見込 工知能が発達し、機械がまれる日本では、需要増 人間に置き換わると、労を前提とした能力増強投 働者の半分近くが失業す資よりも、ITの活用に る」との学者レベルの懸よる生産性向上投資が主 念が紹介される中で、「今役となるのは自然の流れ 後も労働人口の減少が続くことが避けられない鳥であらう。

また、先般公表された 取は、こうした副作用を2016年版中小企業白 気にせず、思う存分IT書は、労働生産性が大企 活用を図ることができる業平均を上回る高収益中 はず」と、むしろ逆境を小企業の特徴を整理して バネに鳥取経済を強化すおり、大変興味深い。「稼 意見もみられた。ける中小企業」は、設備 意見もみられた。投資とIT支出に積極的 これら一連の議論にみ

に取り組んだ結果、資本 られるように、鳥取の将装備率・売上高・労働生 来にとつて、ITの活用産性が高まり、賃金も高 が大きな鍵を握っている水準との好循環の姿にあ ことは間違いなからう。る。他方、経営者が高齢 (日本銀行鳥取事務所になるにつれ、守りの姿 勢が中心となり、投資に